



# とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の視点を踏まえた授業づくりのポイント



## とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期） R5～

### 確かな学力

#### 問題発見・解決能力の育成

とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）では、「問題発見・解決能力」の育成を目指し、「子供の問題（課題）意識を高める」「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」の二つの視点を基に授業改善に取り組むこととしています。どのような子供の姿を目指して授業づくりに取り組めばよいか、これまでの授業を見つめ直してみましよう。そして、学習者中心の授業づくりに向けた取組を進めていきたいと思います。

#### 【授業改善の視点】

##### 視点1 子供の問題（課題）意識を高める

＜教師の手立て（例）＞

- ・導入での事象の提示や学習環境の工夫
- ・既習事項との違いを確認する場の工夫 等



・なぜだろう。  
 ・今までと違うぞ。どうしてだろう。  
 ・できる、分かるようになりたい。もっと知りたい。

##### 視点2 子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする

※自己調整：課題解決の過程で、自分の学習状況を把握し他の子供と話し合うなどして、方向性を見直したり、必要な内容等について考えたりすること 等

＜教師の手立て（例）＞

- ・活動の見通しをもたせる工夫
- ・情報を収集・選択し、考えをもたせる工夫
- ・一人一人の問題解決に生きる対話の工夫
- ・考えを分かりやすくまとめ、表現させる工夫
- ・自己の活動を振り返らせたり、身に付いたことを自覚させたりする場の工夫 等



・〇〇してみよう。次は△△していけばよさそうぞ。  
 ・ここは、まだよく分からないから調べよう。  
 ・みんなは、どう考えたかな。聞いてみたいな。  
 ・みんなに言いたいことが伝わるかな。  
 ・ここまで分かったぞ。次は、□□してみよう。

- ・学びに向かう力の高まり
- ・自己肯定感の向上

・もっと考えたい。  
 ・あきらめないでよかった。また、がんばろう。

#### 家庭学習へのつながり

・もう1回やってみよう。  
 ・難しいかもしれないけれど、挑戦しよう。

#### ＜問題発見・解決能力を身に付けていく子供の姿の例＞

問題発見・解決能力を身に付けていく子供の姿は、必ずしも以下の順にみられるわけではありません。学習の状況に応じて繰り返しみられたり、行き来したりすることも考えられます。

##### 興味・関心をもつ

- ・心が動く（感動、驚き等）
- ・疑問を感じる

##### 課題を見いだす

- ・気付く
- ・ずれを感じる
- ・追究したくなる問いまで高める

##### 課題解決への見通しをもつ

- ・目当てをもつ
- ・ゴールをイメージする
- ・進め方を考える

##### 考え、判断し、解決していく

- ・自分事として捉える
- ・比較、関連付ける
- ・試行錯誤し、自らの学習を深める
- ・考えをまとめ、伝え合う

##### まとめと振り返りをする

- ・課題に対する学習内容をまとめる
- ・学び方を振り返る
- ・身に付いた力に気付く
- ・新たな気付き、見通しをもつ

#### ＜教師の具体的な手立ての例＞

##### 目指す子供の姿に向けて単元を構想する

- ・子供に身に付けさせたい資質・能力の確認
- ・子供の実態、教師の願い、教材の特性を意識した全体計画の作成
- ・指導事項を踏まえた評価場面の位置付け

##### 子供が課題をもつための場や環境を設定する

- ・引き出した問いや願いから、子供自らが追究したくなる課題づくりへの後押し
- ・学習への期待感を高める事象の提示や学習環境づくり

##### 単元を通して、子供の問題（課題）解決の意識の持続・向上を図る

- ・授業で扱う材料や用具等の工夫、場所や時間の柔軟な設定
- ・子供のつまづきを想定した複数の手立ての準備
- ・既習事項との違いに気付かせる発問や板書計画づくり

##### 子供が主体となって学び進めるための場や機会を設ける

- ・子供が追究に応じて選択できる、教材、方法、進め方等の工夫
- ・子供が必要なときに、必要な相手と対話したり、協働したりできる場面の設定
- ・収集した情報を整理・分析し、まとめ・表現する機会の充実

##### 子供一人一人の学びの状況を把握する

- ・問題解決の見通しがもっているかの見取りと声かけ
- ・端末やノート等で子供の考えの確認
- ・子供が付けたい力に向かっているかの状況確認

##### 子供が成果や課題を自覚するための視点や場を設ける

- ・振り返る観点・視点の明確化
- ・子供が次の活動の見通しをもつための振り返りの活用

各学校による主体的な学力向上の取組の推進（Ⅱ期） PDCAサイクル H25～R4

I期を根底に置く

学力の向上と人間関係づくりを一体的に進める「学び合い」（Ⅰ期）H20～H24  
実感を伴った理解につながる「体験」の重視

＜授業改善の視点＞

○ねらいを明確にした授業の構想 ○目的を明確にした書く活動 ○終末における学習成果の確認

#### 学びの土台

幼児期から育む非認知能力※の例

##### 自分を高める力

意欲、好奇心、創造性等

##### 自分と向き合う力

自己肯定感、自制心、やり抜く力等

##### 他者と関わる力

コミュニケーション力、協調性、思いやり等

※非認知能力とは、学力テスト等で数値化しにくい、内面的なスキルや特性を指します。